

CentreCOM® 9812T/9816GB リリースノート

この度は、CentreCOM 9812T/9816GB をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.4.4 pl06 (2.4.4-06)

2 未サポート機能

以下の項目は付属のコマンドリファレン스에記述がありますが、本製品ではサポート対象外となっていますので、あらかじめご了承ください。

- ポリシーベース QoS の「優先制御」
CREATE QOS FLOWGROUP コマンドの PRIORITY パラメーター
CREATE QOS TRAFFICCLASS コマンドの PRIORITY パラメーター
DISABLE QOS PRIORITYQUEUEING コマンド
ENABLE QOS PRIORITYQUEUEING コマンド
SHOW QOS PRIORITYQUEUEING コマンド
- ADD/SET DVMRP INTERFACE コマンドの TTLTHRESHOLD パラメーター

3 本バージョンで追加・仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン **2.4.4 pl05** から **2.4.4 pl06** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が追加、または仕様変更されました。

3.1 クラシファイアの MACTYPE パラメーター

CREATE CLASSIFIER、SET CLASSIFIER、SHOW CLASSIFIER コマンドの MACTYPE パラメーターに指定できる値が次のように変更されました。

変更前 (～ 2.4.4 pl05) : MACTYPE={L2UCAST;L2BMCAST;ANY}

変更後 (2.4.4 pl06) : MACTYPE={L2UCAST;L2MCAST;L2BCAST;ANY}

2.4.4 pl05 までは、L2BMCAST がユニキャスト以外のすべて（マルチキャストとブロードキャスト）を表していましたが、**2.4.4 pl06** では L2MCAST がマルチキャストを、L2BCAST がブロードキャストをそれぞれ別個に表すようになりました。

この仕様変更により、**2.4.4 pl06** では「MACTYPE=L2BMCAST」という指定がエラーになります。**2.4.4 pl05** までのバージョンで「MACTYPE=L2BMCAST」の条件を持つクラシファイアを使っていた場合は、該当するクラシファイアを2つに分け、それぞれ「MACTYPE=L2BCAST」、「MACTYPE=L2MCAST」という条件を指定してください。

3.2 ファイアウォール (AT-FL-10) とハードウェアパケットフィルターの併用

ファイアウォール (AT-FL-10) とハードウェアパケットフィルターの併用をサポートしました。適用はハードウェアパケットフィルター、ファイアウォールの順となります。ただし、ファイアウォール機能を有効にした場合、ファイアウォールポリシーに追加されたインターフェース (VLAN) 経由の通信 (ルーティング) はソフトウェア処理となりますのでご注意ください。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.4.4 pl05 から 2.4.4 pl06 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 インターフェース拡張グループ MIB の ifXEntry の一部が正しくカウントされませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.2 ブリッジ MIB の dot1dStpPriority の値が正しくありませんでしたが、これを修正しました。
- 4.3 ブリッジ MIB の dot1dStpPortForwardTransitions が正しくカウントされませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.4 ブリッジ MIB の dot1dStpTopChanges が正しくカウントされませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.5 内部温度がしきい値を超えても Temperature トラップが送信されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.6 SNMP トラップの agent-addr フィールドに始点 IP アドレスと異なるアドレスをセットしてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.7 NTP パケットの送信間隔が正しくありませんでしたが、これを修正しました。
- 4.8 PURGE NTP コマンドの実行後も NTP の設定が一部残っていましたが、これを修正しました (「7.6 PURGE NTP コマンドについて」もご参照ください)。
- 4.9 DISABLE TELNET SERVER コマンドを実行し、次に ENABLE TELNET SERVER コマンドを実行すると、本製品がレポートしていましたが、これを修正しました。
- 4.10 レイヤー 2 スイッチング動作において、マルチキャストパケットが同一 VLAN 内にフラディングされませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.11 トランクグループに (制限数 16 を超える) 17 までポートを追加できていましたが、これを修正しました。
- 4.12 DISABLE SWITCH HASH コマンドの設定が CREATE CONFIG コマンドで作成する設定ファイルに反映されませんでしたでしたが、これを修正しました。

- 4.13 CREATE SWITCH TRUNK、SET SWITCH TRUNK コマンドの SPEED パラメーターが機能しませんでした、これを修正しました。
- 4.14 SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターでポートセキュリティの設定を変更すると、スタティックな FDB エントリーがすべて削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.15 スパニングツリープロトコルにおいて、本製品が送信する BPDU のパケット長が正しくありませんでしたが、これを修正しました。
- 4.16 DELETE SWITCH FILTER コマンドにおいて、複数エントリー指定時の動作が正しくありませんでしたが、これを修正しました。
- 4.17 ポリシーベース QoS において、サポート対象外の SET QOS、SHOW QOS コマンドが実行可能でしたが、これらを実行できないようにしました。
- 4.18 RESET IP COUNTER=ALL を実行しても IP ARP カウンターがクリアされませんが、これを修正しました。
- 4.19 IP インターフェースのリンクアップ直後、RIP パケットがすぐに送信されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.20 SET TRACE コマンド、TRACE コマンドの PORT パラメーター（終点 UDP ポートを指定するパラメーター）が正しく機能しませんでした、これを修正しました。
- 4.21 本製品自身が IP パケットを送信するとき、宛先が ARP キャッシュに登録されていると、出力ポートがタグ付きポートにもかかわらず、タグなしパケットとして送信されていましたが、これを修正しました。
- 4.22 DVMRP において、DELETE DVMRP INTERFACE コマンドで DVMRP インターフェースを削除すると、ADD DVMRP INTERFACE コマンドで同じインターフェースを再度追加しても、該当するインターフェースの経路がホールドダウン状態のままとなっていました、これを修正しました。
- 4.23 本製品の DVMRP インターフェース配下にグループメンバー（ホスト）と下流側 DVMRP ルーターが存在している構成において、グループメンバーから IGMP Leave メッセージを受信すると、下流側ルーターから DVMRP Prune メッセージを受信している状態であっても、下流側ルーターにマルチキャストパケットを転送し続けていましたが、これを修正しました。
- 4.24 DISABLE IP IGMP コマンドで IGMP を無効にしても IGMP Query が送信されていましたが、これを修正しました。
- 4.25 IGMP をいったん無効にし、再度有効にした場合、グループ登録がすぐに行われなかったことがありましたが、これを修正しました。

- 4.26 IGMP 使用中にシステム時刻が変更されると、IGMP グループエントリーの Refresh time が不正な値になることがありましたが、これを修正しました。
- 4.27 ファイアウォール (AT-FL-10) 使用時、ルーティングされた IP パケットの TTL が減算されませんでした、これを修正しました。
- 4.28 ファイアウォール (AT-FL-10) 経由で Kerberos を使用すると、認証に失敗することがありましたが、これを修正しました。
- 4.29 ファイアウォール (AT-FL-10) 使用時、PUBLIC インターフェース配下の端末から別の PUBLIC インターフェース宛てに Telnet を実行した場合、パケットを破棄したことを示す Deny イベントがログに記録されませんでした、これを修正しました。
- 4.30 すべてのポートがリンクダウンしている状態で VRRP を有効化すると、SHOW IP INTERFACE、SHOW IP ROUTE コマンドで「Interface」欄に表示されるはずの「#」(リンクダウンを示す記号) が表示されなくなりましたが、これを修正しました。
- 4.31 1 つの IP インターフェースに 2 つのバーチャルルーター (VR) を作成した場合、該当する IP インターフェース宛での Ping に応答しませんでした、これを修正しました。
- 4.32 DHCP サーバー機能において、リレーエージェント経由で DHCP メッセージを受信すると、クライアントに誤ったサブネットの IP アドレスを割り当ててしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.33 DHCP サーバー機能において、IP アドレスのリース期間が年をまたがった場合、SHOW DHCP CLIENT コマンドで Expiry (リース終了日時) が正しく表示されませんでした、これを修正しました (「? ? SHOW DHCP CLIENT コマンドの表示について」もご参照ください)。
- 4.34 DHCP サーバー機能の設定において、DHCP ポリシーの継承機能 (CREATE DHCP POLICY コマンドの INHERIT パラメーター) を利用している場合、他のポリシー (子ポリシー) が依存している状態であってもベースポリシー (親ポリシー) を削除できていましたが、これをできないようにしました。

5 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.4.4 pl06 には、以下の制限事項があります。

5.1 DHCP ポリシーの設定について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」 / 「DHCP ポリシー」

DHCP ポリシーを複数設定して保存すると、ポリシー名が昇順 (英字はアルファベット順、数字は小さい順) にソートされて設定スクリプトファイルに書き込まれます。CREATE DHCP POLICY コマンドの INHERIT パラメーターで既存のポリシーを継承する設定を行う場合には、次の例のように、新規に作成するポリシー名が昇順で後になるようにしてください。

```
CREATE DHCP POLICY=BBB LEASETIME=7200 INHERIT=AAA
```

5.2 クラシファイアの設定について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

- CREATE CLASSIFIER コマンドで IPXSSOCKET と IPXD SOCKET パラメーターを指定しても該当のパケットが正しく分類されません。
- CREATE CLASSIFIER コマンドで IPXDADDR/IPXSSOCKET/IPXD SOCKET パラメーターを指定して IPX の設定を行った後、SET CLASSIFIER コマンドで MACTYPE パラメーターに L2UCAST を指定して設定を変更しても、該当のパケットが正しく分類されません。このような設定変更を行った場合は、設定を保存し、本製品を再起動してください。

5.3 DHCP リレー (DHCP メッセージ最大転送回数) の設定について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」

DHCP メッセージの hops フィールドの値が、SET BOOTP MAXHOPS コマンドで指定した値 (最大転送回数) より大きい場合でも、同メッセージが破棄されずに転送されます。

5.4 DVMRP について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

本製品を含む 3 台のルーターの DVMRP インターフェースが同一の VLAN に所属している構成で、本製品の配下にグループメンバーが存在していない場合、上流側ルーターからのマルチキャストパケットを下流側ルーターに転送せず、上流側ルーターに Prune メッセージを送信するため、下流側ルーターがグループに参加することができません。

5.5 ファイアウォール (AT-FL-10) /ICMP メッセージの転送について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「ファイアウォールポリシー」

ENABLE FIREWALL POLICY コマンドの ICMP_FORWARDING パラメーターに ALL を指定し、ICMP メッセージを転送するよう設定した場合、本製品の PUBLIC インターフェースから送信される Destination Unreachable, Time Exceeded などのメッセージの送信が遅れることがあります。

5.6 マルチキャストパケットのフラッドについて

マルチキャスト MAC アドレス 01-80-C2-00-00-10 ~ 01-80-C2-00-00-3F 宛てのパケットは、同一 VLAN 内にフラッドされません。そのため、OSI Route level 1 IS hello (01-80-C2-00-00-14) などのパケットが転送されずに破棄されてしまいます。

6 旧版リリースノートの誤記訂正

旧版リリースノート「CentreCOM 9812T/9816GB Version 2.4.4 pl05 リリースノート (Rev.C)」には、記載内容に一部誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

- 6.1 「4.2 クラシファイアの設定について (p.2)」の第 3 項に下記の制限が記載されていますが、これは制限ではなく正常な動作です。

誤：CREATE CLASSIFIER コマンドで SVLAN パラメーターを指定し、ハードウェアパケットフィルターのフィルターエントリーで該当のクラシファイアを使用した場合、指定した VLAN 宛のパケットが破棄されます。

正：SVLAN からのパケットを破棄するフィルターエントリーを作成した場合、SVLAN 宛での通信においても、SVLAN からの戻りパケット（ARP reply など含む）が破棄されるため、結果的に SVLAN との通信ができなくなります。これは正常な動作です。

- 6.2 「4.5 OSPF のルート表示について (p.3)」に下記の制限が記載されていますが、これは誤りです。バージョン 2.4.4 pl03、2.4.4 pl05、2.4.4 pl06 のいずれにおいても、このような制限はありません。

誤：SHOW OSPF ROUTE コマンドで経路情報が正しく表示されません。経路の確認は、SHOW OSPF LSA コマンドで行ってください。

正：SHOW OSPF ROUTE コマンドに制限はありません。

- 6.3 「4.8 MIB カウンタリセットについて (p.3)」に下記の制限が記載されていますが、これは制限ではなく正常な動作です。RESET INTERFACE COUNTER コマンドでは、MIB カウンターはクリアされません（「7.8 RESET INTERFACE COUNTER コマンドについて」もご参照ください）。

誤：指定したインターフェースの MIB カウンターをリセットする RESET INTERFACE COUNTER コマンドが正しく動作しません。

正：RESET INTERFACE COUNTER は、SHOW INTERFACE コマンドの COUNTER オプションで表示される統計値をリセットするコマンドです。この統計値は MIB カウンターと関連していますが、MIB カウンターそのものとは別に管理されています。そのため、RESET INTERFACE COUNTER コマンドを実行しても、MIB カウンターはクリアされません。

7 コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

付属の CD-ROM に収録されている「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.4 (Rev.A)」の補足事項です。

7.1 スタティックルートの設定について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (スタティック)」

ADD IP ROUTE コマンドでスタティックルートを設定する場合、NEXTHOP パラメーターで指定するネクストホップルーターの IP アドレスは、INTERFACE パラメーターで指定する IP (VLAN) インターフェースと同じサブネットにある必要があります。異なるサブネットに属する IP アドレスを指定した場合は、エラーによりコマンドは実行されません。

7.2 クラシファイア (MACTYPE パラメーター) について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

CREATE (SET) CLASSIFIER コマンドの説明で、MACTYPE パラメーターの選択肢として「L2UNICAST (ユニキャスト)」が記載されていますが、正しくは「L2UCAST (ユニキャスト)」ですので、訂正してお詫びいたします。

7.3 VLAN 登録数について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

CREATE VLAN の「備考・注意事項」に、「VLAN は 4090 個 (VLAN default を含む) まで作成できる」とありますが、正しくは「2048 個 (VLAN default を含む)」ですので、訂正してお詫びいたします。なお、VID は 2 ~ 4090 の範囲で設定可能です。

7.4 ポート帯域制限 (EGRESSLIMIT パラメーター) について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

SET SWITCH PORT コマンドの EGRESSLIMIT パラメーターに 0 を指定した場合の説明として「帯域ゼロ (パケットを送信しない) の意味」とありますが、正しくは、NONE と同じく「帯域を制限しない」の意味になりますので、訂正してお詫びいたします。

7.5 ファイアウォール (AT-FL-10) / インターフェース NAT ルールの削除

参照 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「ファイアウォール NAT」

ADD FIREWALL POLICY NAT コマンドの NAT=STANDARD で追加したルールを DELETE FIREWALL POLICY コマンドで削除する場合は、IP パラメーターの指定が必要です。ルールを追加するときに IP パラメーターを省略した場合は、削除するときに IP=0.0.0.0 を指定してください。

7.6 PURGE NTP コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

PURGE NTP コマンドの説明に「コマンド実行前に NTP モジュールが有効だった場合は、すべての設定削除後再度有効にする」とありますが、同コマンドを実行するとすべての NTP 設定が削除されるため、NTP モジュールは無効状態となります。訂正してお詫びいたします。

7.7 SHOW DHCP CLIENT コマンドの表示について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」 / 「概要」

SHOW DHCP CLIENT コマンドの表示項目「Expiry」の説明に「残りリース時間」とありますが、正しくは「リース終了日時」です。訂正してお詫びいたします。

7.8 RESET INTERFACE COUNTER コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

コマンドリファレンスには記載されていませんが、指定したインターフェースの統計カウンターをクリアするコマンドとして、次のコマンドが用意されています。

RESET INTERFACE [= {ifindex|interface}] COUNTER

INTERFACE には、インターフェースのインデックス番号 (ifIndex) がインターフェース名を指定します。インデックス番号とインターフェース名は、SHOW INTERFACE コマンドの「ifIndex」および「Interface」欄で確認できます。省略時はすべてのインターフェースが対象となります。

なお、本コマンドでクリアされるのは、SHOW INTERFACE コマンドの COUNTER オプションで表示される統計値です。この統計値は MIB カウンターと関連していますが、MIB カウン

ターそのものとは別に管理されています。そのため、RESET INTERFACE COUNTER コマンドを実行しても、MIB カウンターはクリアされません。

7.9 ポートトランキングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

ポートトランキングと下記の機能は併用できません（トランクポートでは下記の機能を使用できません）。

- スパニングツリー
- IGMP/IGMP snooping

7.10 DHCP の静的割り当て設定について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

DHCP レンジ内の IP アドレスを特定の MAC アドレスに静的割り当てする場合、以下の点にご注意ください（静的割り当ての設定は ADD DHCP RANGE コマンドで行います）。

- 静的割り当ての対象となる端末（DHCP クライアント）は、DHCP レンジの所属サブネットではしか使用できません。本製品は、静的割り当て対象の MAC アドレスに対して、つねに静的な IP アドレスを割り当てようとするため、端末を他のサブネットに移動すると、（動的割り当てによる）アドレス設定が正しく行えなくなります。静的割り当てした端末を他のサブネットに移動するときは、DELETE DHCP RANGE コマンドで静的割り当てエントリーを削除してください。
- 同一の MAC アドレスに対して複数の静的割り当てエントリーを作成した場合、最後に作成したエントリーだけが有効となります。1 つの MAC アドレスに複数の IP アドレスを静的割り当てしないでください。